

平成 2 5 年度
「新潟県コンクリート診断士会」 通常総会

ほんぽーと新潟市立中央図書館（3F 多目的ホール）

平成 25 年 7 月 4 日（木）

平成 2 5 年度

「新潟県コンクリート診断士会」 通常総会次第

平成 25 年 7 月 4 日 (木)
ほんぽーと新潟市立中央図書館

【総 会】(3 階 多目的ホール 13:30~14:00)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 議 事
第 1 号議案 平成 24 年度事業報告並びに収支決算承認の件
第 2 号議案 平成 25 年度事業計画並びに収支予算決定の件
5. その他連絡事項
6. 閉 会

【シンポジウム】(3 階 多目的ホール 14:20~16:45)

テーマ:「インフラの老朽化を考える」

1. 会長挨拶 (14:20~14:25)
2. 新潟県道路施設維持管理計画の概要 (14:25~14:55)
講師:新潟県道路管理課計画安全係 土田様
3. 補修設計における課題 (14:55~15:25)
講師:開発技建株式会社 近藤会員
—— 休憩 (15:25~15:35) ——
4. 断面修復における課題 (15:35~15:55)
講師:BASF ジャパン株式会社 中村会員
5. 新潟県内の補修事例 (15:55~16:15)
講師:株式会社レックス 小林会員
6. 質疑応答他 (16:15~16:45)

※ 各講演時間及び演題は変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

【懇 親 会】(会場: +3 (プラスサード) 17:15~18:45)

住所 新潟市中央区東大通 1-1-1 第 5 マルカビル 3F (旧三越ブラザービル)

tel 025-253-3435

会費 4,000 円

懇親会会場
プラスサード



新潟県コンクリート診断士会 ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/niigatakon/>

事務局 (株)クリエイトセンター内 設計部 遠藤

TEL: 025-232-7121 FAX: 025-232-7129

E-mail endou@ngk-center.co.jp

入会金・年会費振込み先

第四銀行 白山支店 新潟県コンクリート診断士会
事務局 遠藤 潤 口座番号 1633148

「新潟県コンクリート診断士会」

平成24年度 事業報告書

自 平成24年4月1日

至 平成25年3月31日

1. 事業の概況

新潟県コンクリート診断士会は、平成20年10月の設立以来、講演会や技術セミナー等によるコンクリート診断技術の向上や会員同士の親睦ならびに診断士会情報発信等の広報活動に努めてきた。これらの結果、現状における会員数は100余名・賛助法人11団体の大きな組織となった。

平成25年度は、講演会・技術セミナーを開催するとともに東日本高速道路株式会社様のご好意により関越自動車道における橋梁補修工事の現場見学会を実施し診断技術の向上に努めた。

また、新潟県他主催の技術研修会への講師派遣等による積極的なPR活動を行った。

2. 会員数の推移

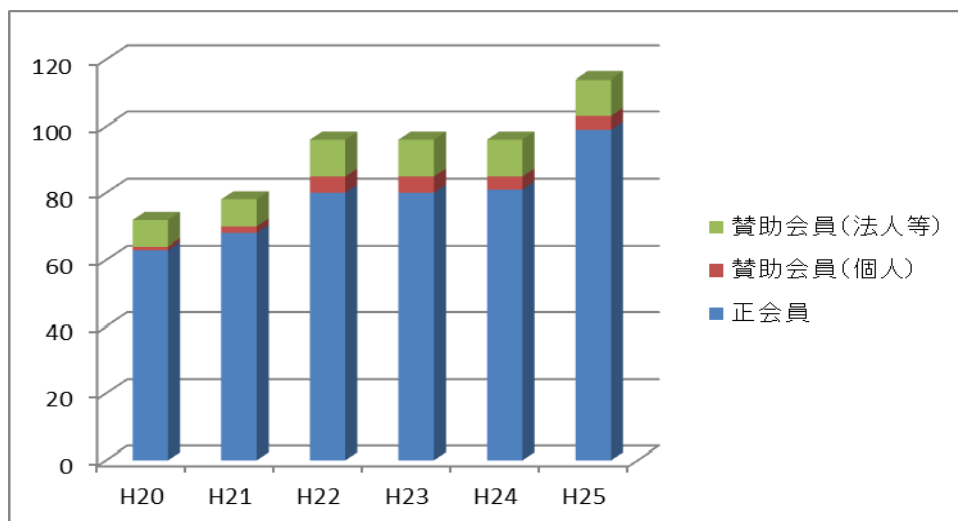


図-1 会員数の推移（総会開催時人数）

【現会員数（平成25年6月末現在）】

正会員	97名
賛助会員（個人）	4名
賛助会員（法人等）	11団体

【会員の職種構成（平成24年8月末時点）】

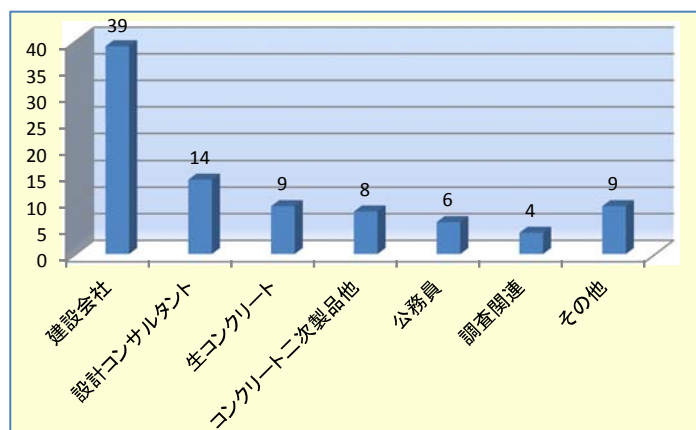


図-2 会員の職種構成

表-1 設立からの主な活動の記録

年度	種別	月日	講演他
平成 20 年	設立総会	10 月 31 日	「コンクリート診断士の現状と将来」長岡技術科学大学 丸山教授
平成 21 年	技術セミナー	2 月 3 日	「コンクリートあれこれ」新潟工科大学 地濃教授 「補修工法及び補修材料」「診断事例」外部講師
	通常総会	6 月 18 日	「中越地震と中越沖地震におけるＲＣ学校建物の挙動について」 新潟大学 加藤教授
	技術セミナー	10 月 23 日	「塩害環境を測る」新潟大学 佐伯准教授
平成 22 年	技術セミナー	2 月 10 日	「コンクリート構造物の維持管理」長岡技術科学大学 下村准教授 「新潟県の道路施設管理」新潟県土木部道路管理課 町屋課長補佐 「最近の構造物診断技術」 外部講師
	通常総会	6 月 10 日	「耐震補強壁における乾燥収縮ひびわれ対策の試み」 長岡工業高等専門学校 岩波 教授
	臨時総会	10 月 7 日	「コンクリートのひびわれについて」 新潟工科大学 地濃教授 「 ” ” 」 長岡技術科学大学 丸山教授
	現場見学会	11 月 1～2 日	国道 8 号線沿線橋梁の塩害状況・柏崎刈羽原子力発電所
平成 23 年	通常総会	7 月 7 日	「東日本大震災の被災状況」 長岡技術科学大学 丸山教授
	技術セミナー	12 月 1 日	「北陸地方の損傷橋梁の現状と対応」北陸地方整備局 平賀様 「NEXCO 東日本におけるコンクリート構造物の現状と対策」西川様 「コンクリート構造物の長寿命化の課題」（パネルディスカッション）
平成 24 年	通常総会	7 月 5 日	「イタリアにおける歴史的建築物と現在の共生」建築家 鳴沢先生
	現場見学会	9 月 25 日	関越自動車道橋梁補修現場

3. 會議他開催状況

(1) 通常総会（出席会員数 64 名）

・平成 24 年 7 月 5 日・・・ほんぽーと新潟市立中央図書館

主な議題 平成 23 年度事業報告・平成 24 年度事業計画の承認他

(2) 役員・幹事会

- ①平成 24 年 4 月 27 日・・・新潟県生コンクリート工業組合

主な議題 平成23年度事業総括・平成24年度事業計画案策定

- ②平成24年6月17日・・・新潟県生コンクリート工業組合

主な議題 平成24年度総会開催準備

- ③平成24年7月19日・・・新潟県生コンクリート工業組合

主な議題 平成 24 年度総会総括・外部研修会への講師派遣・現場見学会計画

- ④平成 24 年 10 月 18 日・・・新潟県生コンクリート工業組合

主な議題 現場見学会総括・技術セミナーの計画

- ⑤平成 25 年 1 月 11 日・・・株式会社 クリエイトセンター

主な議題 技術セミナー準備

- ⑥平成 25 年 4 月 19 日・・・新潟県生コンクリート工業組合

主な議題 平成24年度事業総括・平成25年度事業計画

4. 講演会・技術セミナー他開催状況

(1) 講演会（出席者数：会員 64 名＋一般 22 名）

・平成 24 年 7 月 5 日・・・ほんぽーと新潟市立中央図書館

「イタリアにおける歴史的建築物と現在の共生」

講師：株式会社 アクロス・ザ・ドア建築研究所 主宰 鳴沢 晴美様

イタリアローマ大学やフランスパリ、ル・コルビュジュ財団などで学び、「西洋の建物・都市づくり」の知見が深い、女流建築家・鳴沢晴美（アカロス・ザ・ドア建築研究所主宰）を招いた講演会が5日、新潟市立中央図書館（ほんぽーと）で開かれた＝写真。県コンクリート診断士会の主催で、会員をはじめ、建築や都市計画に携わる学生らが聴講し、メモを取るなど熱心に耳を傾けていた。

「イタリアにおける歴史的建築物と現在の共生」が講演テーマで、鳴沢氏は、▶古代ローマ建築の素材、施工方法、理論、▶法的規制の変遷と、規制に対する対応、▶インテリアなど法的な規制が出来ない内部空間に対する対応について、イタリアの歴史的建築物や街並みをスライドで映しながら、わかりやすく解説した。

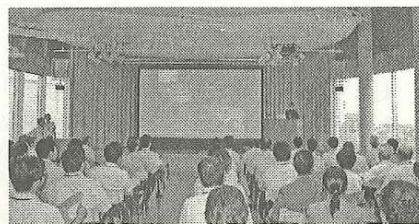
この中で、古代ローマ建築について、「当時の理論、施工方法、素材が現代まで生きている」とした上で、紀元前の共和制ローマ時代に活動したウィトルウィウスの建築の書に触れ、「この書では『強さ（構造）』『実用（機能）』『美しさ』を兼ね備えていなければならないとされており、日本が縄文～弥生時代にあった時にすでにこのような考えがあったのは驚き」と紹介。さらに、コロッセオやパンテオンといった建築物を例示し、このような巨大建築をつくることを可能にした一つの要因として、古代コンクリートの利用を取り上げた。

また、古い街並みを保存する法的規制の変遷について、美術品の国外流

出防止から始まり、有名建築物の保全、さらにマイナー建築も含めた街並み保護へと広がり、1985年には風景保全を図るガラッソ法が制定され、水質、気象、動植物も含め総合的な環境を保護する動きへと進展してきたことを説明。同氏は「マスタープランに基いて保全が図られており、計画がなければ開発がでないが、既存建物内の住居や専門店に対して税制の優遇措置も行っており、都市全体として活性化していく仕組みになっている」として、中心部の空洞化対策に寄与していると強調した。このほか、イタリアでは照明を“都市のしつらえ”として位置づけており、ランプの電球・色彩が統一されているとも説明した。

さらに、インテリアなど法的な規制が出来ない建物内部においても、歴史のあるフレスコ画や彫刻をお店に飾るといった取り組みを進めて市民が日常的に歴史に触れ合える環境を創出。加えて、世界遺産のトリノヴァレンティーノ城をトリノ工科大学建築学部の校舎として利用している事例も取り上げ、「イタリアは残すことの意味を非常に良く考えている。市民を巻き込んで議論しながら、まちに対する愛情を共有しているように思える」と強調し、今後のまちづくりのあり方を示唆した。

「残す意味、非常によく考えている」



女流建築家・鳴沢氏が新潟で講演
今後のまちづくり示唆
県コンクリート診断士会主催

(2) 現場見学会（参加者数：会員 19 名）

・平成 24 年 9 月 25 日

関越自動車道 中之島橋（六日町 IC 先）他の断面修復工事見学



集合写真（道の駅南魚沼「雪あかり」にて撮影）

実際の補修作業を間近で見ることができ貴重な体験をさせていただきました。また、断面修復の範囲や厚さについて綿密な調査結果やシュミレーションに基づき適正最小限の範囲とする等で環境負荷の低減に努められており、膨大な施設を管理する方々のご苦心を知ることができました。東日本高速道路株式会社 白石課長様や現場の方々にはあらためてここに御礼申し上げます。

（現場見学会概要報告書より一部抜粋）

(3) 技術セミナー（出席者数：会員 35 名＋一般 28 名）

・平成 25 年 2 月 4 日・・・・・・ほんぼーと新潟市立中央図書館

- ① 現場見学会参加報告 株式会社 加賀田組 鶴巻会員
- ② コンクリート劣化のメカニズムと主な調査方法 株式会社 ダイアテック 柳会員
- ③ 橋梁損傷事例と補修 株式会社 開発技術コンサルタント 寺田会員
- ④ 施工事例 ライト工業株式会社 開発技術本部リニューアル技術部
大槻 俊正様

5. その他活動

(1) 新潟県主催技術研修会への講師派遣

- ・日 時：平成 24 年 5 月 17 日（木） 9：40～10：50（診断士会担当）
- ・場 所：新潟県庁自治研修所
- ・講 師：劣化損傷のメカニズム・調査方法・・・・・・株式会社 ダイアテック 柳会員
橋梁損傷事例と補修・・・・・・株式会社 開発技術コンサルタント 寺田会員

(2) 建設技術センター主催技術セミナーへの講師派遣

- ・日 時：平成 24 年 11 月 5 日（月）～6 日（火）
- ・場 所：新潟県自治会館（11 月 5 日） 上越市民プラザ（11 月 6 日）
- ・テーマ：コンクリートのひびわれ対策
- ・講 師：材料の工夫・・・・・・株式会社 木戸生コン 池浦会員
施工の工夫・・・・・・株式会社 水倉組 小林会員

(3) その他

- ・平成 24 年 6 月 22 日
生コン勉強会（主催：三蒲地区生コンクリート協同組合）への出席
- ・平成 24 年 10 月 23 日
コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム
（主催：一般社団法人コンクリートメンテナンス協会）への出席
- ・平成 24 年 12 月 3 日
橋梁長寿命化修繕計画（市町村）平成 24 年度ワーキングへの出席
（主催：新潟県建設技術センター）

地濃会長は、公共インフラ・コンクリート構造物の劣化対策のためには、「コンクリート診断士」等の技術者育成が課題であることを日頃より力説され、併せて「コンクリート診断士」資格制度や当会の PR にもご尽力頂いております。

関連する新聞特集記事（新潟日報 H25. 3. 2・建設ジャーナル H25. 3. 20）を次ページに添付します。

トンネル、橋の寿命延ばせ

公共インフラ進む劣化

中央自動車道笹子トンネル（山梨県）の天井板崩落事故や、上越新幹線大清水トンネル壁のモルタル落下などで、老朽化による公共インフ

ラの劣化が大きな問題になっている。こうした中、トンネルや橋などのコンクリート構造物を老朽化から守り、寿命を延ばす技術を身につけようと、本県の建設現場の技術者が研修会などで研さんで励んでいる。

(報道部・山田晃)

2月中旬の平日夜、柏崎市の新潟工科大学で、建設現場の技術者らを対象にした研修会が開かれた。テーマは「コンクリート診断技術」。ひび割れ発生の原因を理解することが大切」「施工中にできたひび割れへの対処も重要だ」。講師の説明に、地

元の建設会社の社員ら約40人がメモを取りながら熱心に耳を傾けていた。研修会は、柏崎商工会議所総合建設部会が同年度から毎年冬の約3カ

句のニュースや地域の課題、身近な出来事を記者の視点で掘り下げる NEWS BY EY のコーナーへ、情報やご意見をお寄せください。〒950-0118 新潟日報社報道部「企画報道班」まで、ファクスは 025 (378) 6540。メール Teey@nigat-a-nippo.co.jp。P.p.

る事故が相次ぎ、国も老朽化対策に予算を重点配分す

研さん励む県内技術者

月間、開いている。60年代の高度経済成長期に造られた橋やトンネル、ビルなどコンクリート構造物の維持管理に対応する技術者を育成するのが狙いだ。

る方針を打ち出す中、今年は昨年の倍の延べ約1500人が受講した。受講生の柏崎市の建設会社役員、植木秀美さん(63)は「新しい技術や具体的な補修の事例などから増えてくる。将来は『急務だ』と強調する。受講生の一人で、同大学院を修了し柏崎市の建設会社社に勤務する安藤祐太郎さん(28)は「インフラの補修の仕事はこれから増えてくる。将来は

研修会の講師を務める
同大の地濃茂雄教授（コ
ンクリート工学）は「新

を知ることができる。若い人に技術を指導する上でも役立つ」と話す。

崎で研修会 点検、維持管理学ぶ

コンクリートの診断や補修技術を学ぶ研修会 柏崎市の新潟工科大学

141人、県内では236人（2012年4月現在）いるが、「まだ足りない」（地濃教授）のが現状。

同局は「北陸地方では、冬季の風浪や凍結防止剤

同局は北陸地方では冬季の風浪や凍結防止剤の散布による塩害などの影響を受ける橋もある。関係者が情報を共有することで保全に役立つ」と話している。

取材メモ

暮らし支える
「現場」の仕事

勤務後や休日に研修を受ける技術者。「老朽化による事故を防ぐためにも技術をしっかりと身に付けたい」という彼らの話からは、仕事への誇りと責任感が伝わってきた。

現場の技術者や作業員による地道な維持管理の仕事が、私たちの暮らしを支えている。インフラの老朽化は今後進み、対策は避けて通れない。これからは物を造る以上に、物を守り維持する技術が必要になる。柏崎のように、産学官が連携して、維持管理に携わる技術者を育成する取り組みが県内で広がってほしい。

国管理の県内道路トンネル

「建設50年超」
20年後に75%

高度経済成長期を中心に整備されたトンネルや橋などの社会資本の老朽化は、県内でも今後急速に進むとみられている。

国の管理する県内の44の道路トンネルのうち、2011年4月現在で建設後50年以上経過したのは約20%、20年後には約75%となる見込みだ。また県が管理するトンネルは207あり、建設後50年以上は現在の約21%から20年後には約54%になる。

国は定期的に点検を実施し、緊急性の高いものから補修している。県は12年度までに点検を実施済みだが、今後は13年度中に策定を目指す道路施設維持管理計画に沿って、点検を進めていく方針だ。

国や県はインフラ点検を進めるが、市町村の中には費用や技術者が不足などで、手が回らない自治体もあるという。

地濃教授は「劣化の状況など現状を把握し、カルテを作成しておくことが有効だ」と話している。

コンクリート構造物の主な劣化の仕組み (地濃教授作成)



地盤教授によると、コンクリート構造物の寿命や耐久性はまちまちで、点検や診断、適切な補修・補強により延命させることができる。

劣化の仕組みはまず、施工時の不具合や温度・湿度の変化などによってひび割れが発生。ひびから内部の鉄筋の腐食が進み、耐久性が低下する。本県では塩害による劣化も多いという。

ひびから腐食 樹脂で補修

小さいひびには特殊な樹脂を注入するなどの補修方法があり、塩害には塩分を運る材料で鉄筋を保護するといった対策がある。

⑤築後30年がたち、塩害で劣化し橋の下部。コンクリートが剥けて

筋があらわになり、さびている
⑤周囲のコンクリートを取り除き
鉄筋のさびを落とした上で特殊な
修材で覆う（地濃茂雄教授提供）

アフター

ビフォー

建設を担う人にエールを

中央道笹子トンネル崩落事故以来、トンネル壁面のコンクリート剥落などがニュースとして大きく取り上げられ、維持・管理の問題が注目されている。戦後の復興と高度成長時代を経て今日の社会基盤がつくられてきたが、特にコンクリート構造物の老朽化問題は、どのように考えていくべきなのか。コンクリ

社会空間の創造と

自然の脅威に立ち向かうコンクリート



新潟工科大学
地濃 茂雄 教授
(工学博士・新潟県コンクリート診断士会会長)

聞き手 建設ジャーナル社 丸山政信

丸山 コンクリートとは何か、まず先生のお考えを聞きたいと思いま

地濃 科学技術の進歩とともに、経済の成長や

利便性を求めて、人々は特定の場所に集中するようになりまし

このような過密化の環境においては、ものを遮断できる材料と構造が必要不可欠です。材料的にみれば、地震や火災などに身を護り、また外界

の熱光、音、風、水などを完全に遮断できる材料でなければなりません。この点、コンクリートは強さと耐久性のほかに、十分な厚さや広がりを持って、火熱、光、音、風、水などを完璧に遮断できる能力をうまく持ち合わせています。

インフラの分野でも断りです。ダムや橋や堤防では水を、トンネルや擁壁では土砂を、また新幹線や高速道路などでは地

丸山 では社会基盤創造の上の構造面からは、地濃 創造を担うには無コンクリートだけでは無理なことです。なにしろコンクリートは引張り力、鉄筋の助けを借りればコ

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

の熱光、音、風、水などを完全に遮断できる材料でなければなりません。この点、コンクリートは強さと耐久性のほかに、十分な厚さや広がりを持って、火熱、光、音、風、水などを完璧に遮断できる能力をうまく持ち合わせています。

インフラの分野でも断りです。ダムや橋や堤防では水を、トンネルや擁壁では土砂を、また新幹線や高速道路などでは地

丸山 では社会基盤創造の上の構造面からは、地濃 創造を担うには無コンクリートだけでは無理なことです。なにしろコンクリートは引張り力、鉄筋の助けを借りればコ

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年



『鋼管矢板圧入工法』

コンクリート劣化問題は実構造物で初めて遭遇する問題！



新潟工科大学
地濃 茂雄 教授
(工学博士・新潟県コンクリート診断士会会長)

聞き手 建設ジャーナル社 丸山政信

丸山 コンクリートとは何か、まず先生のお考えを聞きたいと思いま

このように過密化の環境においては、ものを遮断できる材料と構造が必要不可欠です。材料的にみれば、地震や火災などに身を護り、また外界

丸山 では社会基盤創造の上の構造面からは、地濃 創造を担うには無コンクリートだけでは無理なことです。なにしろコンクリートは引張り力、鉄筋の助けを借りればコ

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

技術者を育てることが急務

丸山 コンクリートとは何か、まず先生のお考えを聞きたいと思いま

このように過密化の環境においては、ものを遮断できる材料と構造が必要不可欠です。材料的にみれば、地震や火災などに身を護り、また外界

丸山 では社会基盤創造の上の構造面からは、地濃 創造を担うには無コンクリートだけでは無理なことです。なにしろコンクリートは引張り力、鉄筋の助けを借りればコ

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

丸山 ところで近年、コンクリート構造物の老朽化や劣化が大きな問題となつていますね。地濃 高度成長期以降の構造物や建築物が、完成後30年から50年経過して、経年劣化が進んでいることは事実です。インフラの例として、橋梁寿命50年としてみた場合、2021年では28%、31年

トンネル207のうち、建設後50年以上のものは現在約21%ですが20年後には約54%にもなる計算です。

コンクリート構造物は国民の生活と社会の安全を維持する重要な役割を担っています。

私たちはコンクリート診断技術の向上に努め、地域の安全と社会に必要な人材を育てています。

「ひと」も「コンクリート」も。

新潟県コンクリート診断士会 niigata C.D.

事務局 新潟市中央区川岸町 2-8-1 (国クリエイトセンター内)
TEL 025-232-7121 FAX 025-232-7129

建設業 一人親方等の 労災保険

1/月(土 8:30~18:00)

親方組合

11-28 サトウ労働研究所内
36-8000 fax.0256-36-8001

ゼロ災害を目指そう！

【平成 24 年度収支決算書】

収入の部	会費収入	正会員	3,000×85	255,000 円
		賛助会員（個人）	3,000× 4	12,000 円
		賛助会員（法人等）	10,000×11	110,000 円
		小計		377,000 円
	入会金収入	正会員	1,000× 9	9,000 円
		小計		9,000 円
	前年度繰越金			265,777 円
	収入の部合計			651,777 円

			実績	（予算）
支出の部	総会費	（会場費・講師旅費他）	134,160 円	（150,000 円）
	セミナー関連費	（会場費・講師旅費他）	127,350 円	（150,000 円）
	部会活動費	（技術部会・広報部会活動費）	—	（100,000 円）
	関係団体負担金	（日本コンクリート診断士会会費）	42,500 円	（ 50,000 円）
	広報費	（新聞広告費他）	60,000 円	（ 40,000 円）
	通信・交通費	（活動旅費他）	25,920 円	（ 70,000 円）
	事務・会議費	（コピー代・備品購入費）	56,171 円	（ 50,000 円）
	予 備 費		—	（ 41,777 円）
	支出の部合計		446,101 円	（651,777 円）

次年度繰越金 651,777 円 — 446,101 円 = 205,676 円

監 査 意 見 書

平成 24 年度決算について、出納簿、その他の証憑書類を照合精査したところ、正確なものと認めます。

平成 25 年 6 月 12 日

新潟県コンクリート診断士会

会計監事



岳修

「新潟県コンクリート診断士会」

平成25年度 事業計画書(案)

【活動計画】

新潟県コンクリート診断士会は、「コンクリート診断士」の社会的地位の向上、及び「コンクリート診断士」によるコンクリート診断技術の普及と向上に努めることにより、社会全体の健全な発展に大きく寄与することを目的とし、平成25年度は、以下の事業活動を行う。なお、事業の推進に当っては、技術部会・広報部会においてそれぞれの役割分担に応じた活動を積極的に行い内容の充実を図るものとする。

1. 通常総会の開催

平成25年7月4日(木)

2. コンクリート診断に関わる知識、技術、文化の向上に資するための事業

➤ 技術セミナーの開催

予定時期：平成25年11月～12月 内容：診断・新補修技術等に関わる講演

➤ 技術発表会の開催

予定時期：平成26年2月 内容：会員による業務成果発表・意見交換

3. コンクリート診断士の社会的地位の向上に資するための事業

➤ 関係自治体他への研修会講師派遣

➤ 国土交通省北陸整備局、新潟県及び県内市町村等への当会と診断士制度活用のためのPR強化

4. その他

➤ 会員及び日本コンクリート診断士からの情報や賛助会員(法人等)とのリンクを貼る等によるホームページの充実、会員への情報伝達の円滑化

【予算計画】

収入の部	会費収入	正会員	3,000×100	300,000 円
		賛助会員(個人)	3,000× 4	12,000 円
		賛助会員(法人等)	10,000× 11	110,000 円
		小計		422,000 円
	入会金収入	正会員	1,000× 14	14,000 円
		小計		14,000 円
	前年度繰越金			205,676 円
	収入の部合計			641,676 円
支出の部	総会費	(会場費・講師旅費他)		150,000 円
	セミナー関連費	(会場費・講師旅費他)		150,000 円
	部会活動費	(技術部会・広報部会活動費)		100,000 円
	関係団体負担金	(日本コンクリート診断士会会費)		50,000 円
	広報費	(新聞広告費他)		40,000 円
	通信・交通費	(活動旅費他)		70,000 円
	事務・会議費	(コピー代・備品購入費)		50,000 円
	予備費			31,676 円
	支出の部合計			641,676 円